

子どもの貧困、教育格差と求められる支援について

認定 NPO 法人 キッズドア 渥美 未零



日々、子どもたちと向き合っておられる学校教職員の皆さまは、学習のつまずきや友人関係の悩み、不登校など、さまざまな課題への対応に尽力されていることと思います。お忙しいなかで、子ども一人ひとりの背景にある家庭環境や経済状況、生活上の困りごとについて十分な情報が得られないまま、子どもや保護者への対応をされている場面も多いのではないのでしょうか。

「学校徴収金をなかなか持ってこない」「宿題をやっていない」「忘れ物が多い」といった日常の一場面の背景には、子どもや保護者からの小さな「助けて」の声が隠れている場合があります。

日々子どもたちに関わる教職員の皆さまをはじめ、子どもに関わるすべての方に、「子どもの貧困」という視点に少し耳を傾けていただければ幸いです。

「もしかしたら」と気にかけていただくことで、子どもや保護者への関わり方が変わり、学校以外の支援機関や行政、民間団体などへつなぐ選択肢も広がります。

認定 NPO 法人キッズドアは、「すべての子どもが夢や希望を持てる社会」をめざし、子どもの貧困問題に取り組んでいる団体です。経済的な理由によって学習や体験の機会が制限されてしまう子どもたちに対し、無料学習会の運営、居場所支援、進学支援などを行ってきました。

支援の現場で日々接しているのは、「努力が足りない」のではなく、「選択肢そのものがない」子どもたちの姿です。たとえば、模擬試験を「受けない」のではなく、数千円の費用を払えず、「受けられない」子どもがいます。

また、ひとり親家庭では、保護者が帰宅するまでの間、中学生や高校生の兄や姉が親代わりとなり、下のきょうだいの世話をしている

ケースも少なくありません。

そのような家庭では、決して大きくない家で、きょうだい騒がしい中で落ち着いて宿題や勉強に集中することが難しい場合があります。塾へ通いたくても経済的理由で通えない、学校の居残り学習に参加したくても、きょうだいの世話のために帰宅しなければならない。家計を支えるために夜遅くまでアルバイトをし、授業中に眠気に耐えられない子どももいます。

先生方から見ると、「やる気がないように見える」子どもの背景に、このような事情が隠れている可能性があります。

キッズドアでは、2009年より無料学習会や居場所支援を行ってまいりました。しかし、貧困の連鎖を断ち切るためには、子どもだけでなく保護者への支援も必要であると考え、2020年に家庭支援事業「キッズドアファミリーサポート」を立ち上げました。

キッズドアファミリーサポートは、日本国内に在住し、0歳から22歳までの学生の子どもの同居する保護者であれば登録することができます。外国にルーツのあるご家庭からの登録も受け付けています。

支援は、「物資支援」「情報支援」「体験活動支援」「就労支援」の4つを柱として、ご登録時にご家庭の状況をデータベースにご登録いただくことで、それぞれの家庭状況に応じた支援を行っています。

子どもへの学習支援だけでは、生活そのものを大きく変えることは難しい場合があります。そこで、子どもと保護者の双方を支援することで、保護者の孤立を防ぎ、「助けて」と声を上げやすくする力(受援力)を高めながら、保護者が子どもに向けられる時間や経済的余裕を増やしていくことを目指しています。

【物資支援】

夏休みや冬休みなど、給食がなくなる長期休暇中は、家庭で十分な食事を取ることが難しくなる子どもが少なくありません。なかには、新学期に体重を減らして登校してくる子どももいます。

実際に長期休暇中は、1日1食～2食を準備するのが精一杯という声や、子どもには我慢させられないので、保護者は1日1食におさえ仕事をされているご家庭も大変多く保護者の体調や精神状況の悪化が心配されます。

キッズドアファミリーサポートでは、寄付やクラウドファンディングによって資金を募り、夏休み、冬休みと年2回、大規模な食料支援を実施しています。今年の夏も物価高騰の中お困りのご家庭へ向けて3,500世帯に食料支援を7月末に行います。

また、食料だけでなく、文房具や学用品、日用品なども各家庭へ届けています。

ランドセルを購入できず、きょうだいのお下がりを使っていたり、サイズの合わなくなった上履きやスニーカーを履き続けていたりする子どももいます。一見すると周囲からは分かりにくいものの、経済的な事情から必要なものを買い替えられない家庭も少なくありません。

スニーカープレゼントプロジェクトに参加した保護者からは、「子どもの足のサイズが大きくなっていくことに気づかず、足を痛めながら履いていたことを知った」「新しい靴が届き、子どもがとても喜んでいった」といった声が寄せられています。

また、ランドセル支援では、「希望していた色のランドセルを受け取り、学校へ行くのが楽しみになった」「入学準備への不安が軽くなった」といった感想もいただいています。

物資支援は単に物を届けるだけではありません。必要なものが届くことで、「自分たちはひとりではない」と感じていただくことにもつながります。私たちは、少しでも生活の改善や安心につながることを願いながら支援を

続けています。

また、このような支援を通して、子どもや家庭の中には必要な物を十分に準備できない状況があることを、多くの方に知っていただければと思います。

【情報支援】

次に情報支援についてですが、行政支援、奨学金、民間団体による支援、体験イベントなどに関する情報を、LINE やメールを通じて保護者へ届けています。

仕事や子育てに追われ、自ら情報を探す時間を確保することが難しい家庭にとって、必要な情報が届くことは、選択肢を増やすことにつながります。

そのため、他団体情報、困窮者支援情報、JASSO などの奨学金や、企業奨学金など、日々私共も情報のアンテナを張りながら情報をいち早くキャッチし、ご家庭へわかりやすい文章や、チラシなどを用いて情報のご提供を行っています。

また、コロナ禍以降、オンラインセミナーも開催し、不登校や発達特性、子育て、お金に関する悩みなどについて専門家を招いた保護者支援を行っています。

そのなかで実施したアンケートでは、困窮家庭において不登校や発達特性への対応に悩む保護者が多いことが分かりました。

「家庭の状況を説明することが恥ずかしく、学校へ相談しづらい」

「子どもの不登校や発達特性について、親の責任だと思われる気がする」

「何もできない親だと思われているようで苦しい」

こうした声から、学校やスクールカウンセラーに相談できず、一人で悩みを抱え込んでいる保護者が少なくないことが見えてきました。また、その苦しさや不安をうまく伝えられず、学校との関係づくりに困難を抱える保護者も見受けられます。

不登校の背景には、いじめや学業不振だけ

でなく、きょうだいの世話や保護者の不安定な就労、家事負担など、複数の困難が重なっている場合があります。

私たちはオンラインセミナーなどを通して、相談先や支援制度、家庭でできる対応について情報を届けています。学校や行政に相談してよいことを知り、早期相談や早期支援につながることで解決できる課題も少なくありません。

今後も専門家と連携しながら、保護者が必要な情報を得られる機会を提供していきたいと考えています。

【体験活動支援】

近年注目されている「体験格差」は、単なる思い出の差ではありません。体験の不足は、子どもが自分の可能性や興味に出会う機会の不足でもあります。

キッズドアファミリーサポートでは、企業や団体の協力を得ながら、年間100件を超える体験活動の機会を提供しています。観劇、スポーツ観戦、音楽鑑賞、企業訪問など、学校や家庭だけでは得にくい経験を子どもたちへ届けています。

困難を抱える家庭の子どもであっても、環境と支援があれば、大きく可能性を伸ばしていくことができます。

実際に、小学生の頃から野球が好きだった子どもがいました。しかし、地域の野球チームでは保護者の付き添いや当番が必要であり、保護者が土日にも働いていたため、入団を断念せざるを得ませんでした。

また、部活動の地域移行によって遠征費や移動費などの負担も増え、家庭で送迎の時間や費用を捻出できずに部活動の参加を断念せざるを得ない子どももいます。

さらに中学校・高校への進学時には、制服や教材などの購入だけでも大きな負担となります。入学準備費用が払えずに、クレジットカードなどのキャッシングを利用するご家庭も多いと弊会が行った入学に関するアンケート

調査結果にもそのようなお困りごとをご回答する家庭が多くなっています。そんな借り入れを行っているなか入学直後、学校で部活の説明会や体験入部で興味を持ち、自宅に帰り保護者に目を輝かせながら「部活をやりたい!」といっても、困窮家庭の保護者は部費や用具代、遠征費などを負担することが難しく、簡単には首を縦に振ってあげることができず「やりたいけれど始められない」「続けたいけれど続けられない」という状況が生まれています。

さらに、旅行や映画、美術館、観劇などの文化的体験についても、時間的・経済的理由から経験の機会に差が生まれています。

夏休みにどこにも出かけられず、新学期に友人との会話に入りづらい子どももいます。夏休みの思い出を発表することが苦痛で不登校になってしまう子どももいます。出かけられることが当たり前ではなく、このような子どもたちがいることを知っていただければと思います。

また、体験活動のなかには、中高生向けのキャリアイベントもあります。企業の方々と交流を通して、将来の仕事や社会について学ぶ機会を提供しています。

実際に、こうした体験をきっかけに進路への意欲を高め、医療職や専門職を目指して進学した卒業生もいます。非日常の体験は、子どもたちの将来の可能性を広げる大切なきっかけになります。

弊会の支援とは少し異なりますが、学校行事についても触れさせていただきます。

林間学校や修学旅行は、子どもたちにとって学校生活の大切な思い出であり、学びや人間関係を深める貴重な機会です。しかし、家庭によっては参加費用の準備が大きな負担となる場合があります。

近年は修学旅行費用への補助制度を設ける自治体も増えていますが、多くは参加後の支給であるため、事前に費用を用意できない家庭では利用しづらい場合があります。また、

旅行代金だけでなく、バッグや衣類、洗面用具、お小遣いなどの準備費用も保護者にとっては大きな負担となります。

参加を見送る子どもの中には、「興味がない」「行きたくない」と話す子どももいます。しかし、その言葉の背景に経済的な事情や、周囲に知られたくないという思いが隠れている場合もあります。本当は参加したい気持ちを抱えながら、あえてそう話している子どももいます。

また、参加しなかった子どもは、事前学習や旅行後の振り返り活動、友人同士の思い出話に入りづらくなり、疎外感を抱くことがあります。

教職員の皆さまがこうした背景を理解し、参加の有無だけで子どもの意欲や家庭の関心を判断しないことは、子どもや保護者の安心につながります。

修学旅行をはじめとする学校行事が、すべての子どもたちにとって安心して参加できる機会となるよう、経済的な事情が子どもの経験や学校生活に影響を及ぼしている可能性にも目を向けていただければ幸いです。



ラグビー体験観戦イベント

【就労支援】

最後に、保護者向けの就労支援についてご紹介します。

離婚や死別などを経験した保護者のなかには、自信を失い、「自分には何もできない」と感じている方もいます。キッズドアでは、「わたしみらい」プロジェクトや資格取得プロジェクトを通じて、保護者が学び、自分らしく働き、生きていくための伴走支援を行っています。

保護者の心や生活が安定することで、子どもにも良い変化が生まれるという声を多くいただいています。

「親が学ぶ姿を見て、子どもも机に向かうようになった」

「毎日の仕事に加え、資格の勉強を頑張る親の姿をみて、家事を手伝ってくれるようになり、親子の会話が増えた」

「在宅勤務へ転職できたことで、不登校の子どもと過ごす時間が増えた」

このように、保護者への支援は、子どもの安心や成長にもつながっています。

私共のキッズドアファミリーサポート支援は、以下のようなロジックモデルを掲げています。

私たちの「キッズドアファミリーサポート」では、物資支援・情報支援・体験活動支援・就労支援を相互に結びつけながら、ご家庭を継続的に支援しています。

物資支援をきっかけに支援とつながった保護者が、情報支援によって制度や奨学金、子育てに関する情報を受け取り、少しずつ生活や子育てへの不安を軽減していきます。

さらに、体験活動への参加を通して親子の笑顔や子どもの成長を実感することで、「この子のために頑張りたい」という前向きな気持ちが生まれます。そして、その思いが就労支援や資格取得への挑戦につながり、生活の安定や自立へと結びついていきます。

一步一步は決して大きくありません。しかし、「ひとりではない」と感じながら支援につながり続けることで、保護者と子どもが少しずつ自信を取り戻し、自分らしい未来を描けるようになることを目指しています。



企業相談会

【教職員が気づけるサイン】

子どもの貧困や家庭の困難は、必ずしも表面には現れません。しかし、日常の学校生活の中で見えてくる小さなサインがあることもあります。

- ・ 学校徴収金や教材費の提出が繰り返し遅れる
- ・ 忘れ物や提出物の未提出が続く
- ・ 修学旅行や校外学習に消極的な様子が見られる
- ・ 部活動や習い事を突然やめる
- ・ 制服や靴、学用品の傷みが目立つ
- ・ 長期休業後に体重の減少や体調不良が見られる
- ・ 家庭の話題を避ける
- ・ きょうだいの世話や家事の負担を抱えている様子がある

もちろん、これらが直ちに経済的困難を意味するわけではありません。しかし、「なぜだろう」と一歩立ち止まって考えていただくことで、子どもや保護者が抱える困難に気づききっかけになるかもしれません。

子どもたちの行動の背景には、本人の努力や意欲だけでは解決できない事情が隠れていることがあります。学校だけで抱え込まず、必要に応じて行政や地域の支援機関、NPOなどとつながることも、子どもと家庭を支える大切な支援の一つです。



キッズドアでは、学習支援をはじめとした子どもたちへの教育支援を行っています。子どもたちの学習支援に役立つ情報についても、ホームページに掲載しております。

キッズドア HP <https://kidsdoor.net/>

また、ご家庭への支援として「キッズドアファミリーサポート」を全国で展開しております。お困りのご家庭がございましたら、ぜひ「キッズドアファミリーサポート」をご紹介します。ホームページよりご登録いただくことで、各種支援情報を受け取ることができます。

キッズドアファミリーサポート

<https://kidsdoor-family-support.jp/index.html>

さらに、ボランティア活動へのご参加に加え、ご寄付によるご支援も受け付けております。現役の教職員の方はボランティアを行うお時間を確保することは難しいかもしれませんが、元教員の方も現在学習支援の指導員としてご活躍いただいております。

※キッズドアは認定NPO法人のため、寄付金控除等の税制優遇の対象となります。

認定特定非営利活動法人キッズドア
(NPO Kidsdoor)

2007年 1月 任意団体キッズドア設立

2009年10月 NPO法人取得

2021年10月 東京都より「認定特定非営利活動法人」(認定NPO法人)取得

2025年10月「グッドギビングマーク」認証取得

所在地：東京都中央区新川2-16-10 プライムアーバン新川2階

●**学習会・居場所の運営**：経済的な理由で塾に通えない小・中・高校生を対象に、無料の学習会を運営

●**大学進学サポート**：塾や予備校に行かずに大学進学を目指す高校生に向けたオンラインや対面でのサポートを実施しています。

●**キッズドアファミリーサポート**：全国の子育て家庭へ向けて物資、情報、体験、就労の4つの支援をお届けしています。

●**調査・提言・啓発**：支援を通じて見えてきた子どもや保護者の実態を社会に発信し、給付型奨学金の創設など制度の実現にも貢献しています。